

令和元年度第3回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和2年1月31日（金） 14時30分～15時00分				
開催場所	半田市役所303・304会議室				
会議次第	1. あいさつ 2. 議事 (1) 意識調査（アンケート）結果報告について (2) 意識調査（アンケート）結果を踏まえた新計画に対する意見等について 3. その他				
出席委員 ※敬称略	会長	千頭 聡			
	副会長	石川 由弘			
	委員	藤田 純代	深谷 進一	藏谷 善次郎	
		桑田 八重子	牧野 純子	神戸 繁明	
		近藤 倉治	榊原 正躬	鈴木 俊行	
欠席委員 ※敬称略	委員	平林 明美	和喜田 恵介		
出席職員	事務局	課長	大嶽 浩幸	主査	森下 直孝
		主査	中村 裕道	主事	青木 大介

(近藤委員)	2つ目は、半田市民の環境意識が思った以上に高い結果でした。特に、地球温暖化対策が重要と思っている人は、93%もいました。 3つ目は、一方で意識が高く、地球温暖化の重要性も認知されているが、何をしてよいか分からず、行動に移せていないと感じました。例えば、家庭系ごみに約25%の資源ごみが含まれている事実があるが、「効果を実感できないから分別をしない」といった意識と行動のギャップがあると思います。 私がまず思ったのは、回答者は約6割と女性が多いことです。また、次の世代を担う20～30代の回答も20%前後と回答が得られ、良かったと思います。 それから、環境面からの理想像だが、「身近に自然が感じられるまち」、「川や海など水辺に感じられるまち」がそれぞれ3割近いのが印象に残りました。 満足度は、あまり良いとは言えません。「畜産臭気」が、約52%、「川、池、海」は約50%の人が満足していません。問11で重要度を聞いており、市民の関心の高さは窺えるが、どう改善していくかが課題であると思います。 地球温暖化対策については、重要だと93%の人が回答しているものの、問6の生活水準との関係性の問に対しては、5割
--------	---

(桑田委員)	の人が「生活水準を変えない範囲で取り組む必要あり」と回答しており、ギャップを感じました。 私は、ごみの分別が大切だと思っていますが、「効果が実感できない」、「判断に困る」といった回答が多いことから、今後具体的に行っていく中で、市民目線の課題もあると思います。 まず、理想像ですが、「資源のリサイクルが進むまち」「環境活動に取り組みやすいまち」「ごみの削減に積極的なまち」の回答が少なかったのが気になりました。 私は、これらを目標に掲げて、団体活動を行っていますが、これらに意識が向かないと、地域の高揚に繋げるために、どのような取り組みが効果的か検討する必要があるかと思います。 ごみの削減については、ごみの回収を有料化にすると言われていますが、短絡的に思え、有料化で解決するとはやはり思えません。 それから、問9の地球温暖化防止に役立つ行動については、「自分にできる身近なところから取り組みたい」が約8割と大いに期待できる結果だと思います。改めて、身近な取り組みをPRして推進していくべきことだと思いました。 重要度については、全項目が50%前後で「重要である」との結果ですので、これからの政策、取り組み方がたいへん関係
---------------	---

してくることにありますので、これからの計画に活かしていただきたいと思います。

問 16 の記述の「分別を細部まで知らせて、どこまで徹底すべきかはっきりさせていない」に同感しました。例えば、納豆の空容器は、洗ってもなかなか落ちません。しっかり洗って、プラごみにするか、燃えるごみにするか判断に迷います。同様にスーパーの食材のラップは、値札はついたままでプラごみとして出せるのか分かりません。ごみの出し方の冊子をクリーンセンターで出していると思いますが、このような細かいところまで掲載する必要があると思います。

外来生物対策について、「命があるものは駆除しないほうがよい」という回答があるのは、どのような悪影響があるか認知されていないためだと思います。

(牧野委員)

アンケート結果から、感覚的にそんなにズレていないことが分かりました。また、記述回答から、色々な意見が分かり、良かったです。中でも、地球温暖化に取り組みたくない理由で

「自分が頑張ってもやらない人が多いなら一緒」といった内容は、このような会議では出てきません。私は、このような意見は初めて知りました。無作為抽出だからこそ、様々な意見が出てきますし、反対や後ろ向きの意見も大切だと思います。この

	ような意見も踏まえ、計画や政策を考えていくことが必要だと思います。 (深谷委員) 問2の回答で「川や海など水辺がきれいなまち」を約28%の人が理想としていますが、そこに焦点を当ててみますと、一方で、問3の「近くの川、池、海はきれいである」「愛着が持てる川、池、海がある」に満足しているとの回答は、いずれも約40%に留まっており、乖離しています。問11の水質改善の重要度からみても、ぜひきれいにする行動に取り組んでいただき、理想へと近づけていただきたい。 (藏谷委員) 地球温暖化防止については、問4で9割以上が重要と答えていますが、問6では「地球温暖化を最優先に」や「生活水準を変えても」といった積極的な回答は4割に留まっています。また、問8の「誰が中心になって行うか」については、「国・県が中心に行う」の回答が最も多く、自分が主役という意識は欠けています。一方で、問9では、「自分にできる身近なことから取り組みたい」との回答が最も多いわけですから、桑田委員も言われていましたが、身近な取り組みの啓発が必要で、私たちが啓発していくことも必要と感じます。
--	---

(千頭会長)	アンケートから、意識としては、あるいは建前としては、温暖化防止や環境配慮の取り組みは重要と感じています。しかしながら、皆さんが言われたとおり、実態として何ができるかというところでは、他人や行政任せで、どうアプローチしていくことが重要であると読み取れます。 続いて、事業所アンケートに移ります。
(藏谷委員)	回答率が３８％とは、事業主の環境に対する意識が低いと感じ、残念に思います。 また、回答内容を見ますと、コスト面が全面に出ており、環境には配慮できないといった回答が多数あります。いわゆる環境に対するコストが、企業の収益に繋がるような仕組みが必要という気がします。
(千頭会長)	これは、事業所の規模によっても違うと思います。大手は、どんどん先に進んでいます。
(神戸委員)	環境保全協定をほぼ結んでいると考えてよろしいでしょうか。
(事務局)	締結すべきと思われるところは、ほぼ結んでいます。ＩＳＯも２１名以上の事業所は取得している傾向にあります。ただし、市内の事業所は、２０名以下の事業所が多いため、環境マ

	ネジメントまで取り組めないというような回答が多かったかと思われま
(神戸委員)	大手はほぼ取り組んでいる中、中小企業は取り組みに対し、できない、あるいは分からないことが問題です。
(事務局)	そうです。中小企業へのアプローチも課題です。
(神戸委員)	一方で、環境マネジメントに興味があると回答している事業所は40%あるので、そこへの何かしらの取り組みが大事かと思 います。 また、省エネはコストがかかるから、やりたくないというような記載があったが、省エネはコスト管理でもあり、コスト削減に繋がるので、そのPRも必要かと思 います。また、お金をかけずにできることもあると思 います。
(千頭会長)	県の補助等による無料で行える小規模事業所対象のエコ診断はありますか。
(鈴木委員)	小規模ではないが、地球温暖化対策で計画を提出してもらっている事業所がある。その中から毎年選定し、専門業者とともに現場の工程を確認した上で、CO2排出を抑え、コスト削減にもつながるようなアドバイスをする事業があります。

(事務局)	鈴木委員が今話された事業は、今年、半田市役所が該当しておりまして、県職員の方と専門業者の方がお見えになり、市役所の運用方法等の聞き取りを実施され、助言を頂きました。 それから、県の事業ですと、中小企業を対象とした「あいち省エネ相談」があります。県からの情報は、商工会議所に情報提供しています。提供後の把握までしていませんが、今後のPR方法も検討していく必要があるかと思っています。
(石川委員)	やはり、課題は20人以下の小規模な事業所に対してどうアドバイスができるかだと思います。市独自の取り組みも必要と思っています。そこに可能性を感じています。
(鈴木委員)	市民アンケートもですが、回収率が、35%や38%ということは、残りの人は忙しいかもしれないが、興味がないとも言えます。この事実も鑑みて、これらの結果を見ないといけなと思います。仕方がないことですが、アンケート結果で関心が高いと言っても、関心が高い人が回答しています。
(千頭会長)	おっしゃるとおりです。 実は、直感的には市民アンケートの回収率34%は低いです。 回収率として、4割は超えるのが多いと思います。逆に、事業所の38の回答数は、絶対数が少ないですが、比率としたら、

	まあまあかなという印象です。事業者は回収率が低い印象です。 ところで、大手の場合は、取引先サプライチェーンという意味では、サプライチェーンの小さな企業に対し、アドバイスする仕組みがあります。深谷委員の事業所はありますか？
(深谷委員)	弊社は特に環境というよりか、ものづくりなので、効率よく物をつくることによって、環境負荷を下げるといった取り組みになります。遅延がちな、あるいは要望があったメーカー等に対し、ノウハウを伝えています。まずは、合理的というような観点ですけれども、結果的には省エネに繋がっていると考えています。
(千頭会長)	続いて、小中学生アンケートに移ります。
(藤田委員)	現在、学校では総合学習というものがあります。5年生で環境問題を取り扱っています。学習に取り組む中で、意識は以前より変わっている実感はしています。 アンケート対象が、その5年生とそれを経験した中学生ということで、アンケート結果からも、環境問題や持続可能な社会のために何をすべきかを理解をしているかとは思いますが、うれしい結果ですが、悪い言い方をすれば、模範解答を知っている。どこまで心の底に落とし込み、行動できるかは、これから探っ

(千頭会長)	ていくことも必要とか感じています。例えば「電気を節約すべき」と理解しているものの、そのために、早く寝ることはできない。これは、市民アンケートの間6の「生活水準を変えない範囲で取り組む」に繋がるかと思います。 それでは、私が感じたことを話します。市民アンケート問2の環境面の理想像ですが、半田市は、畜産臭気はあるものの、大気汚染といった公害は半田市にはみられないので、「公害がなく安心して暮らせるまち」の回答が50%近くあったことは、意外でした。 また、同アンケート問8温暖化防止の配慮行動についてですが、半分弱の方が、「国や県が中心になって行う」と回答されていることに対し、推測できなくはないですが、逆に言えば国と県が、配慮した行動って何があるのかともとれるので、やや残念に思いました。 それでは、議題2に移ります。
(事務局)	(2) 意識調査（アンケート）結果を踏まえた新計画に対する 意見等について 現計画を見守っていただいている皆様に、今までやっていただいて、思われてきたことや、アンケート結果を踏まえたご意

	見を3つに分けていただき、来年度、新計画策定の際に、参考にさせていきたいと考えています。 1つは、計画全体について、2つ目は、指標・目標について、3つ目は評価についてご意見いただきたいです。 －事務局資料に沿って説明－
(近藤委員)	CO₂削減については、化石燃料を減らすことや再生可能エネルギーの調達といった具体的な政策も必要と感じます。すべての公共施設の太陽光発電や蓄電池など設備導入も考えるべきだと思います。
(神戸委員)	CO₂削減について行政ができることは、CO₂削減行動を市民生活に近づけることだと思います。市民にとって、おもしろくないものをいかに取り組んでもらうかに尽きます。1人1日1kg CO₂削減の取り組みは良いと思います。エコファミリーとの仕組みが次期計画の柱になるとよいかなと思います。
(榊原委員)	柱2の指標だが、分かりにくい。「家庭部門CO₂排出量」と「1世帯あたりの電気・ガス年間使用量」は重複している部分もあるかと思っています。例えば、「1世帯あたりの電気・ガス年間使用量」と「ごみの排出量」を足して、ここまでの数値の世帯は、持続可能な社会に貢献していると分かるような指標だ

	とまだ分かりやすいと思います。
(蔵谷委員)	環境家計簿では、電気、ガス、灯油及びガソリンの使用量を記載します。各家庭がＣＯ２削減に努力するようにするには、１世帯のそれぞれの使用量の基準を示し、周知することにも必要かと思います。
(鈴木委員)	指標に１世帯あたりとあるが、今後は、世帯員の構成人数が少なくなっていく傾向にある中で、良くなることは明らかなので、指標としては適切ではないかと思います。１人あたりであれば最小単位なので、問題ないのかと思います。
(千頭会長)	どういう単位にするかは検討課題です。
(石川委員)	環境配慮型住宅設備は、毎年１００件以上増やすといった目標設定がよいかと思います。
(千頭会長)	現計画時は、向こう１０年間で４，０００件増えれば良いといった考え方だったと思います。今は、太陽光発電単体ではなく、蓄電池等他の設備とセットは明らかな方向なので、それも見直しましょう。
(近藤委員)	公共的な立場の市が、企業に対しても、例えば工場の屋根に

(千頭会長)	太陽光発電システムを設置するといった計画的な政策を展開していく必要があると思います。 市民1人ひとりの努力目標とあわせて、市として何に取り組めるのかの目標が必要ということですね。 それでは、評価についてはどうでしょうか。私がお付き合いしている自治体の中では、半田市が1番きちんと評価をしています。評価の仕組みとしては、半田市が先端を走っていると思います。それは、委員の皆さんや事務局、関係各課の負担があつてのものです。 我々委員が、評価をつけることも大事ですが、更に重要なことは、この会の市民目線の意見を担当課が受けとめて、事業に反映させるやりとりを見える化することです。まだ、不十分な点はあるけれども、大分取り組まれていると思います。だからこそ、そのやりとりを見える化することは、ぜひとも続けられたら良いと思います。 (榊原委員) 我々委員は、実績報告票の自己評価を参考に評価します。その自己評価は、担当それぞれの判断によるものと理解しているが、ばらつきを感じる。また、主体別取組で、公園整備等工事は完了していくので、必然的にA評価になると思うが、他の取
---------------	---

(神戸委員)	組は、職員が努力してもどうしようもないものもあるかと思います。どうしようもないものについては、評価をつけないこともやむを得ないと思います。素直にコメント欄にできない理由を記載してくればよいと思っています。 評価は、正直なところ面倒だが、PDCAサイクルのチェックをきちんと行っていないと計画は推進していきません。 他にいい方法はないし、手間暇かけることで、次のステップアップに繋がるとと思っています。私は、この程度の作業は仕方がないと思います。
(千頭会長) (千頭会長) (事務局)	(3) その他について 全体を通して、ご質問などありませんか。 ー特になしー 事務局から連絡事項ありますか。 2点お願いします。1点目です。令和元年度評価を年度当初に依頼させていただきますので、よろしくお願いします。 2点目、来年度の会議は年2回～3回予定しております。事前に案内していきますので、ご出席の程よろしくお願いいたします。 以上をもって会議終了。

